

5項 離散的ベイズ学習における一貫性について(4節 通研講演会, 第5章 国際会議・シンポジウム等)

著者	Poland Jan
雑誌名	東北大学電気通信研究所研究活動報告
巻	13
ページ	293
発行年	2007-08
URL	http://hdl.handle.net/10097/40712

離散的ベイズ学習における一貫性について

北海道大学 Jan Poland

日時：2006年11月7日（火） 13:30 - 14:30

場所：東北大学・電子情報システム・応物系1号館351・353号室

本講演では、ベイズ学習理論における最近の進展について述べる。特に、3つの基本的なベイズ推定法、すなわち、周辺化、事後確率最大化予測、確率的モデル選択を取り上げ、これらが、あらゆるベイズ推定の中で最も自然であることを論じる。また、学習対象が離散的な仮説クラスに含まれている場合、上記のベイズ推定法が、いずれも強一貫性を有することを示す。

急性心筋梗塞を自動的に治療するシステムの開発

国立循環器病センター研究所

循環動態機能部 血行動態研究室員 上村 和紀

開催日：平成19年2月23日（金）16:00~17:30

開催場所：東北大学大学院工学研究科 電子情報システム・応物系 2号館204
会議室

現在、国立循環器病センター研究所では、心不全治療のための新しい計測制御技術が開発されつつある。たとえば、小動物の心機能は無拘束でモニタリングするための無線電波通信による埋め込み型左室圧・容積センサ、画期的な機能を持った埋め込み型除細動器、あるいは、生体循環系のモデルに基づいて多変数循環動態を所望の状態に近づけることのできる自動制御システムなどである。本講演では、これらのような心不全治療のための電子情報通信技術の医学への最先端応用事例を紹介する。